

I 調査結果概要

県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、持ち直しの動きに足踏み感がみられる。
先行きについては改善の動きがみられる。

〔景況感DI〕

- ・前期比で2.2ポイント増加し▲42.5となり、3期ぶりに改善した。
- ・業種別では、製造業、非製造業ともに3期ぶりに改善した。

〔景況感の先行きDI〕

- ・前期比で6.1ポイント増加し▲18.6となった。2期ぶりに改善した。

〔売上げDI、資金繰りDI及び採算DI〕

- ・売上げDIは▲20.3となり、2期ぶりに悪化した。
- ・資金繰りDIは▲19.5となり、2期連続悪化した。
- ・採算DIは▲24.2となり、2期連続改善した。

〔設備投資の実施率〕

- ・前期比で0.9%増加し24.6%となり、2期連続増加した。

〔来期の見通し〕

- ・売上げDI及び採算DI、資金繰りDIは当期DIより改善する見通しである。
- ・設備投資の実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、DIを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和7年4～6月期、「当期」：令和7年7～9月期、「来期(先行き)」：令和7年10～12月期

1 経営者の景況感と来期の見通しについて

(1) 景況感

自社業界の景況感DIは▲42.5（前期比+2.2）となり、3期ぶりに改善した。
業種別にみると、製造業、非製造業ともに3期ぶりに改善した。

〔景況感DIの推移〕

	当 期 (R7.7-9)	前 期 (R7.4-6)	前年同期 (R6.7-9)
全 体	▲42.5	▲44.7	▲40.0
製 造 業	▲48.4	▲49.8	▲46.3
非製造業	▲38.2	▲40.7	▲35.5

(2) 来期の見通し

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は6.9%（前期比+1.4%）、
「悪い方向に向かう」とみる企業は25.4%（前期比▲4.8%）だった。
先行きDIは▲18.6（前期比+6.1）と、2期ぶりに改善した。

〔来期の見通し〕

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きDI (R7.10-12)
全 体	6.9%	25.4%	▲18.6
製 造 業	5.9%	25.5%	▲19.5
非製造業	7.6%	25.4%	▲17.8

2 売上げについて

売上げD Iは▲20.3（前期比▲0.8）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。
業種別にみると、製造業は2期ぶりに悪化し、非製造業は2期連続改善した。
来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより改善する見通しである。

〔売上げD Iの推移〕

	当 期 (R7.7-9)	前 期 (R7.4-6)	前年同期 (R6.7-9)	来期見通し (R7.10-12)
全 体	▲20.3	▲19.5	▲19.6	▲7.6
製 造 業	▲21.8	▲19.9	▲22.1	▲8.2
非製造業	▲19.1	▲19.2	▲17.8	▲7.2

3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲19.5（前期比▲1.1）となり、2期連続悪化した。来期は改善する見通し。
業種別にみると、製造業は2期ぶりに悪化し、非製造業は2期ぶりに改善した。
来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより改善する見通しである。

〔資金繰りD Iの推移〕

	当 期 (R7.7-9)	前 期 (R7.4-6)	前年同期 (R6.7-9)	来期見通し (R7.10-12)
全 体	▲19.5	▲18.4	▲19.9	▲14.9
製 造 業	▲23.3	▲19.2	▲24.1	▲13.8
非製造業	▲16.5	▲17.8	▲16.9	▲15.8

4 採算について

採算D Iは▲24.2（前期比+1.4）となり、2期連続改善した。来期は改善する見通し。
業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期連続改善した。
来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより改善する見通しである。

〔採算D Iの推移〕

	当 期 (R7.7-9)	前 期 (R7.4-6)	前年同期 (R6.7-9)	来期見通し (R7.10-12)
全 体	▲24.2	▲25.6	▲25.5	▲17.5
製 造 業	▲23.9	▲24.7	▲27.9	▲16.2
非製造業	▲24.4	▲26.2	▲23.8	▲18.5

5 設備投資について

設備投資の実施率は24.6%（前期比+0.9%）となり、2期連続増加した。

来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業とも2期連続増加した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の実施率より減少する見通しである。

〔設備投資の実施率〕

	当 期 (R7.7-9)	前 期 (R7.4-6)	前年同期 (R6.7-9)	来期見通し (R7.10-12)
全 体	24.6%	23.7%	23.4%	19.9%
製 造 業	28.1%	27.8%	27.3%	23.7%
非製造業	21.9%	20.5%	20.7%	17.0%

6 ヒアリング調査の概況

*詳細はP 19を御覧ください。

(1) 売上げ・採算について

業種	コメント
食料品製造	新規受注を定期的に獲得できており、売上げは前年同期比で2割程度増えている。
一般機械器具	受注単価は上がっているものの、コストも上昇しており、採算は変わっていない。
スーパー	売上高は減っている。猛暑の影響により、来店客数が減少している。
金属製品	コストの上昇が落ち着いており、採算は変わっていない。
運輸業	ドライバーを1名増員したことにより、売上高は前年同期比で増加している。
工業塗装	取引先の業績が悪化し、受注量が減少したため、売上げは大幅に減少している。
宿泊業	人件費や仕入価格の高騰により、コストが増加しているため、採算は悪くなった。

(2) 現在の景況感について

業種	コメント
情報サービス業	D X推進の機運が業界を問わず高まっており、好況である。
電気機械器具	半導体関連の受注が低迷しており、不況である。
飲食店	好況である。猛暑の影響により、利益率の高いドリンクの注文が増加している。
輸送用機械器具	米国の関税政策の影響により、自動車関連の受注が減少しており、不況である。
百貨店	客単価は上がっているものの、来店客数は減少しており、厳しい状況にある。
プラスチック製品	価格転嫁の進展により、製品を問わず売上高が増加しており、好況である。
スーパー	魚菜や菓子の売上げが堅調であり、好況である。

(3) 今後の見通しについて

業種	コメント
宿泊業	年末までの予約は順調に推移しており、良い方向に向かうと考えている。
建設業	業界全体で技術者が不足しており、人手不足による廃業が増えていくとみている。
工業塗装	A Iの活用や設備投資によって省人化を進め、生産性向上に取り組んでいく。
食料品製造	新規取引の話が多数あり、今後の見通しは明るい。
金属製品	米国関税政策の方向性が明らかになったことで、企業の設備投資が活発化すると見込まれており、受注は徐々に回復すると考えている。
印刷業	業界の大手企業が印刷事業を縮小する傾向にあり、先行きの不透明感が強い。
旅行業	ツアー代金の高騰により、従来の旅行商品では採算が悪化していくため、インバウンド向けなどの高付加価値商品を造成していく必要がある。